

PRESS RELEASE

— 取材のご依頼申しあげます —

高知初！10月15日「四万十ドラマ阪神梅田店」オープン 高知県庁への表敬訪問が決定しました

株式会社四万十ドラマ(本社:高知県高岡郡四万十町、代表:畦地 履正)は、高知・四万十の魅力に関西圏に広く発信するため、2025年10月15日(水)に阪神百貨店梅田本店地下1階食品フロア内に常設のスイーツ店「四万十ドラマ」をオープンいたします。記念すべき高知県メーカー初の契機にあたり、弊社による高知県庁表敬訪問が決まりましたのでご案内申しあげます。

■高知県庁への表敬訪問

【日時】2025年10月9日(木) 11:30-11:50 *西森裕哉副知事が対応

【場所】高知県庁(高知市丸ノ内1丁目2-20)

【参加】株式会社四万十ドラマ(代表取締役 畦地履正、取締役社長 畦地剛司)



■四万十ドラマ阪神梅田店

店名:四万十ドラマ 阪神梅田店

日時:2025年10月15日(水)10時オープン

電話:06-6345-1201(代表)

住所:〒530-8224 大阪府大阪市北区梅田1丁目13番13号

阪神百貨店梅田本店 地下1階阪神食品館

アクセス:阪神「大阪梅田」駅から徒歩約1分

営業時間:午前10時～午後8時



■しまんと地栗を存分に

新店舗のメインとなるのが、四万十川中流域で育った「しまんと地栗(じぐり)」。栗そのものの美味しさを最大限に活かした「しまんとプルミエモンブラン」、新商品「くりもち」など、この秋とれたての【新栗】スイーツを中心に、【高知グルメ1号店】として阪神百貨店梅田本店に常設店舗として初出店します。人口減少・農家の担い手不足等で激減の一途をたどる地域の栗産業の復活と、高知・四万十の関係人口増加も狙った四万十のPRに尽力してまいります。



【お問合せ先】株式会社四万十ドラマ 畦地剛司(取締役社長)・佐竹貴子(広報担当)

TEL:0880-28-5527 FAX:0880-28-4875 住所:高知県高岡郡四万十町十川9-5

高知初！スイーツ激戦エリア大阪梅田に モンブランの店「四万十ドラマ」10 月 15 日オープン！

高知県四万十町産「しまんと地栗」が主役の、濃厚栗スイーツ専門店が大阪初上陸！
土佐のおきやく魂をのせた“祝オープン記念セット”(数量限定)も販売予定



栗と砂糖だけの栗ペーストを 1 ミリで絞った「プルミエモンブラン」

株式会社四万十ドラマ（本社：高知県高岡郡四万十町、代表：畦地 履正）は、高知・四万十の魅力に関西圏に広く発信するため、2025 年 10 月 15 日（水）に阪神百貨店梅田本店地下 1 階食品フロア内にスイーツ店「四万十ドラマ」をオープンいたします。四万十川中流域で育ったブランド栗「しまんと地栗(じぐり)」の美味しさを最大限に活かしたプルミエモンブラン・くりもちなど、この秋とれたての【新栗】スイーツを中心に、天下の台所大阪にて高知グルメ 1 号店として初出店します。

【四万十ドラマ WEB サイト】<https://ziguri.jp>

新店・阪神百貨店梅田本店「四万十ドラマ」

「四万十ドラマ」は四万十川中流域のヒト・モノ・コトからなるドラマを創ろうと、高知・四万十町で 1994 年に創業した地域商社です。栗・芋・茶など、地域資源を生かした商品開発と、自社工場で製造したモンブランなどを全国に発送しています。地域の魅力ある素材の中でもひととき人気を集めるのが、四万十の恵みを受けて育つ大きくて甘い「しまんと地栗」。半世紀前には年間 500 t 以上とれていた四万十の栗は、農家の高齢化と担い手不足などの影響で現在は約 30 t までに激減。このままでは地域の誇りであった栗産業が消滅してしまうと危機感をもった弊社は、「しまんと地栗」のブランド化、付加価値をつけた商品開発、地元の子も達と栗の植樹を重ね、ついにこの秋、さらに多くの方に魅力と美味しさを届けるべく阪神百貨店に新店舗をオープンするに至りました。

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社四万十ドラマ 広報担当 佐竹 TEL : 090-5711-7101 MAIL : info@shimanto-drama.jp

【「四万十ドラマ」店舗概要】

店名：四万十ドラマ 阪神梅田店

開店日：2025年10月15日(水)10時

電話：06-6345-1201(代表)

住所：〒530-8224 大阪府大阪市北区梅田1丁目13番13号

阪神百貨店梅田本店 地下1階阪神食品館

アクセス：阪神「大阪梅田」駅から徒歩約1分

営業時間：午前10時～午後8時

URL：<https://www.hanshin-dept.jp/hshonten/index.html>



四万十ドラマ 阪神梅田店 店舗イメージ

そして、オープン当日の10月15日(水)～31日(金)の期間限定で、土佐のおもてなし「おきゃく」の心意気をのせたオープン記念セットを数量限定で店頭販売いたします。新店舗「四万十ドラマ」のスイーツが、ちよとずつ味わえる特別セットで、まずは色んな商品をお試しでご賞味いただけますと幸いです。



新店舗を出店する「阪神百貨店梅田本店」

栗のおいしさで勝負した高知のモンブラン

「四万十ドラマ」は阪神百貨店梅田本店では高知グルメ1号店となる、栗スイーツの専門店です。栗と砂糖だけの栗ペーストを1ミリの極細で絞ったとろける食感の「しまんとプルミエモンブラン」と、特製栗餡の中にお餅をとし込めた和菓子「くりもち」をはじめ、手土産にぴったりの焼き菓子も揃えたこだわりの味をどうぞご賞味ください。



ちよとリッチな「しまんとプルミエモンブラン」(写真左)と、もっちり食感の新登場和菓子「くりもち」。

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社四万十ドラマ 広報担当 佐竹 TEL：090-5711-7101 MAIL：info@shimanto-drama.jp

■しまんとプルミエモンブラン

しまんと地栗と砂糖だけの栗ペーストを、1ミリの極細でしぼってとろける口どけに。

無糖の生クリームを閉じ込め、渋皮煮を添えて、甘さ控えめなのに濃厚な絶品モンブランです。

価格：1,080円(税込)

■くりもち

柔らかくてなめらかな特製栗あんに、モチモチのお餅を閉じ込めた和菓子の新商品。

栗あんと餅の相反する食感の楽しさと、食べ応えのあるボリュームも魅力の一品です。

株式会社四万十ドラマについて

1994年(平成6年)高知県四万十町にて、四万十川中流域3町村の第三セクターとして設立。「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトに、道の駅の運営・地域商社としてさまざまな商品開発に挑み、2005年に完全民営化。2021年5月には、山の中の新工場「しまんと地栗工場」を落成。四万十川流域界隈の栗・芋・茶などを原料に素材の美味しさを活かした商品づくりにも努め、足元の資源や産業の背景も全国へ発信しています。また、地元生産者や事業者と連携し「しまんと流域農業 organic プロジェクト」を立ち上げ、四万十の豊かな資源を守ると共に、地域産業を後世に残す活動への挑戦も始めています。



しまんと地栗は過去最大 87g(2023年)を記録、全国平均サイズ一粒 20~25g(写真右)に比べると大きくて甘い。

【ココロザシを表す「まるじ」】

原材料はシンプルに、素材のおいしさを活かした商品づくりが「まるじ」の志です。

四万十川中流域の栗・芋・茶を主役にした商品づくりをモットーにしております。一般的な食品に比べて日持ちしないものもありますが、保存料に頼らない製法を心がけ、こだわりの商品開発に挑戦しております。

四万十ドラマ



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社四万十ドラマ 広報担当 佐竹 TEL : 090-5711-7101 MAIL : info@shimanto-drama.jp

「四万十ドラマ」取締役社長 畦地剛司より

弊社は四万十川中流域のヒト・モノ・コトからなる地域商社としてスタートした会社です。自然を資本とした「四万十川に負担をかけないモノづくり」の考え方をもとに、

- ・ローカル（地域）
- ・ローテク（自分たちにできること）
- ・ローインパクト（負担をかけない）
- ・ローフード（地元の食べ物、伝統）
- ・ローライフ（自分たちが決める暮らし）

のコンセプトを掲げながら、これまで様々な取り組みを展開して参りました。

そして今回、31年目を迎えるこのタイミングで、阪神百貨店様に出店させていただき運びとなり、新たな、そしてとても大きな挑戦として意気軒昂しております！新店舗「四万十ドラマ」では、四万十の恵みに育まれた「しまんと地栗」、サツマイモの「人参芋」、四万十のお茶などの産物を大阪でも味わっていただけるよう山の上からお届けします。高知・四万十の小さな地域にある会社ですが、地域の可能性をたくさんのお客様に知っていただき、喜んでいただけるように努めてまいりますので、お引き立て頂きますようお願い申し上げます。



四万十ドラマ 阪神梅田店を愛されるお店に！

【会社概要】

社名：株式会社四万十ドラマ

本社所在地：〒786-0504 高知県高岡郡四万十町十川 9-5

電話：0880-28-5527 FAX：0880-28-4875

代表取締役：畦地履正(あぜちりしよ)

設立：1994年11月

事業内容：地域商社(6次産業)、菓子製造販売、農業

HP：<https://ziguri.jp>



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社四万十ドラマ 広報担当 佐竹 TEL：090-5711-7101 MAIL：info@shimanto-drama.jp

高知県庁への四万十ドラマ表敬訪問 補足資料

【日時】2025年10月9日(木) 11:30-11:50 * 西森裕哉副知事が対応

【場所】高知県庁 (高知市丸ノ内1丁目2-20) 第一応接室

【参加】株式会社四万十ドラマ(代表取締役 畦地履正、取締役社長 畦地剛司)

■メディア対応 【10/15(水) オープン時】

①阪神百貨店への申し込みフォームにて直接お手続きお願いいたします。

詳細は阪神百貨店ご担当の方にご確認ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSco5cH5UIhCBMKdZSZRfaIQ6eoltrIX-2SK_1501MYHp2Jf9A/viewform

②取材メディアを把握させていただきたく、お手数ですが弊社にもご一報いただけますと幸いです。

■商品について

- ・オープン時は全13アイテムでのスタートを予定しております。
- ・くりもち 350円(税込)
- ・オープン記念セット
価格：2,000円前後で最終調整中
内容：ジグリキントン、マルジョウカン栗、焼きモンブラン
※ジグリキントンのみ原料にしまんと地栗使用
ウリ：手土産や贈り物にもおすすめの特別セット。四万十ドラマ阪神梅田店の販売商品からおすすめの常温菓子をセットにしました。

■しまんと地栗が大きくて甘い理由

- ・四万十川中流域は、栗の収穫期になると昼夜の寒暖差があり、それが作用して大きく肥大し甘い栗ができるといわれている。
- ・収穫が終わった後の冬の時期に行う、農家の剪定管理。日光がきちんと当たり限られたイガに絞って大きい実りとなるように無駄な枝を省いて、翌年、翌々年を見越して樹形を整えることが大切。

■しまんと地栗について

①「しまんと地栗」とは、四万十川中流域で育った栗を、四万十ドラマを通じて青果やスイーツに加工して販売する際に謳う独自のブランド名である。

※JA出荷時は四万十の栗として流通

②四万十の栗の中でも栽培期間中農薬・化学肥料不使用などの決められた基準で栽培管理した生産者のものは「特選栗」として差別化し、四万十ドラマを通じて付加価値をつけて活用している。

これまでJA高知県幡多地区に出荷された地域の栗が、一般栗・特選栗という2種類で取り扱われてきたが、2025年4月に発足した「しまんと地栗協議会」により特選栗は四万十ドラマと栗農家(現在4名)の直接契約となった。

③約50年前までは四万十川中流域(旧大正町・旧十和村・旧西土佐村)で、500tほど生産量のあった四万十の栗は、現在約30tに激減。四万十ドラマでは地域産業の栗を守り繋ぐべく、「しまんと流域農業organicプロジェクト」のもと、2024年4月に社内に農業部を設置。全国の栗の木オーナー、お菓子の取引先や地元の子供たちとの栗の植樹活動もすすめている。

●しまんと地栗植樹プロジェクト

これまでの4年間で、地元(四万十町十和地区、四万十市西土佐地区・中村地区)の耕作放棄や遊休農地に合計約3haの栗の植樹を行ってきた。今後10年間でさらに10haに増やして植え広げることを目標に、四万十川流域の貴重な栗産業を100年後の後世に残せるよう事業拡大している。

・2021年度(2022年3月)

自社、クラウドファンディングで募った栗の木オーナーの支援で植樹。

・2022年度(2023年3月)

自社と協賛の「こうち生協」「パルシステム」と植樹

・2023年度(2024年3月)

自社、地元小学校全児童(旧昭和小・旧十川小)、協賛の「こうち生協」と植樹。

・2024年度(2025年2~3月)

自社、地元小学校1~2年生(旧昭和小・旧十川小)、地元中学校全生徒(現十和中)と植樹

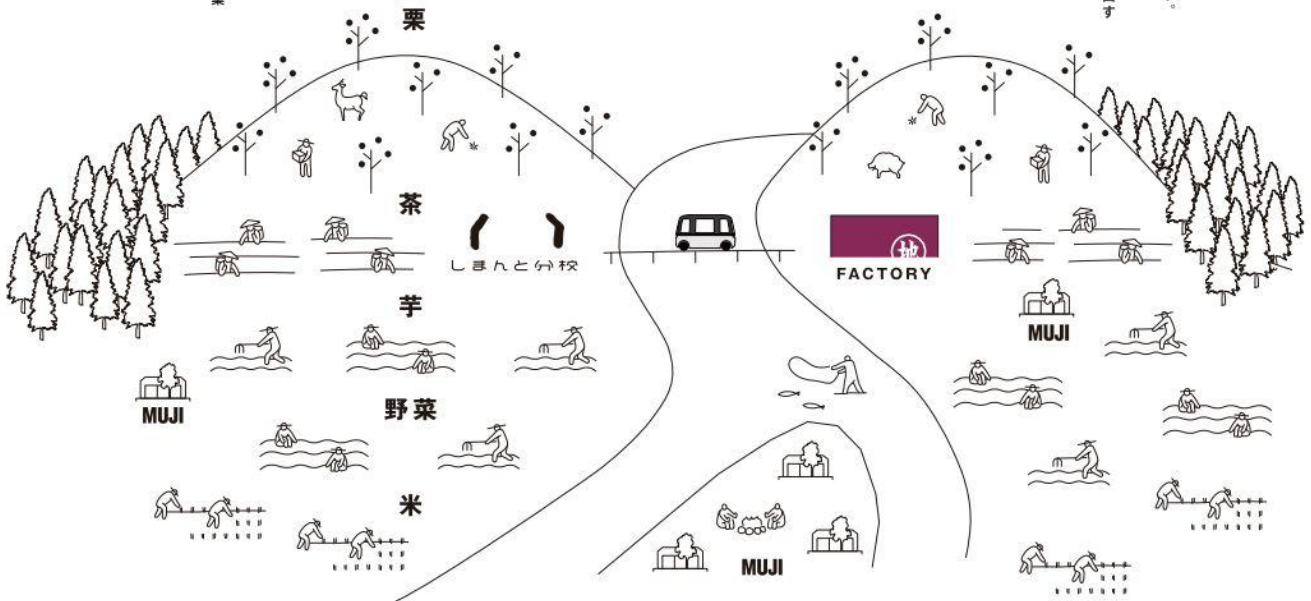
【しまんと流域農業 organic プロジェクト】2021 年発足

しまんと流域農業 ORGANIC

自然が資本
流域の人々の生き方を
ブランドに産業を作る

しまんと流域農業とは
その土地に合った農業
「おいしい」を作る農業
化学肥料・農薬を使わない農業
テクノロジーを積極的に使う農業
移住・定住を受け入れる農業
しまんと川に習う農業
自分たちで決める農業
のコトです。

未来資源
特異な風土そのものが
私達の未来資源。
もうそろそろ、それに気が付こう。
その土地に合った農業をしよう。
そして、あたらしい価値を生み出す
産業を作ろう！
ニッポンに足りないのは「空想」。
農水省の力を借りながら
しまんと流域農業「organic」を
進めています。



農林水産省山村活性化対策事業

しまんと 流域農業 organic

つなぐ (ノウハウ移転)

一次、二次、三次産業を次世代に
繋ぐ SDGs にのっとった仕組みづくり
地域の知恵や技術の継承

- 地元の道の駅
- 四万十川流域の販売店
- 全国の販売先
- 国外の百貨店等

つくる
(契約栽培)
オーガニック野菜の
生産者と連携

& 育てる
(農業研修)
新規就農者の育成
四万十川流域の畑等を
活用した研修システム



(株) 四万十ドラマ
てまひまかける
(商品開発 = 雇用拡大)

芋、栗、流域野菜等を活用した商
品開発および加工
ブランドイメージを意識した
商品開発



ひろげる
(販路拡大)

地産地消・地産外銷による
販路拡大と安定供給
オンライン商談会など

一次産業(生産)

二次産業(加工)

三次産業(販売)